

中山麻聖

宅間孝行

このメンバーで決定版『ターゆうー』を目指す

「今回のメンバーで『ターゆうー』の決定版を目指したい」とは宅間孝行の弁。この公演を語る上で、これ以上期待値を高める言葉はそうそうない——。ということで、東京セレンデラックス時代より数えて4度目の上演となる今作。TAKUMA FESTIVAL JAPANという新たなライブ形態に挑む宅間孝行と、厳しい出演者オーディションを勝ち抜き宅間作品初出演となる中山麻聖の2人に、この作品について語ってもらった。まずは、宅間と中山の出会いとなった、当オーディションの話から。

オーディションはとにかく必死でした(中山)

中山さんにとって、宅間さんが掛けた舞台や映像等で「印象的な一作」といえる？

中山 番記に残っているのは、東京セレンデラックス「わらいのまち」(11年)です。終始笑っぱなしだったんですけど、とにかく楽しくて。帰り道も頭の中でずっとリフレインしていました。

その世界へご自身が加わるわけですが、今のお気持ちはいかがですか？

中山 とにかく緊張しています。何がどうなるのか全く予期できないので、楽しみから生まれる緊張。

宅間 うちは毎回出演者オーディションをやるんですけど、その中に飛び込んでくれて。うちのオーディションはとにかく大変なんです。基本、モチベーションの高い人しか作品作りをしたくないので。

中山さんがオーディション合格に

至った要因は？

宅間 最終的には芝居なんですけど、正直ハマるハマらないもありません。あと、参加者もお互いを見ているから「多分あの人は残るんじゃないかな？」というのをお互いに分かっちゃった。だから、現場ではみんなが「麻聖は多分受かるんじゃない？」と感じていたと思います。

変化球じゃなくて、直球でちゃんと結果を出して……って、自分でも分かってるでしょう(笑)。

中山 言われたこととだけ対応されるか？ だつたので、とにかく必死に食らいついていきましたね。

舞台出演は良い苦しみだと思っ(中山)

現時点(※取材日は4月上旬)でのお互いの印象を教えてください。

宅間 最終的には3ヶ月間位一緒にいる訳だから、やっぱり人として嫌いな人だと辛いんですけど、(オーディション時は)そういう所も何となく見ていたりまするんですけど、その意味でも麻聖く

んは好感度が高い。彼が出るのが決まってるから「あいつは良い奴なんだ」という声をよく聞きます。

中山さんからはいかがでした？

中山 (笑)。

宅間 やっぱ感じの悪い噂とかあるわけ？「宅間はうるせーよ」とか「厳しいよ」とか。

中山 「厳しい」という意見は聞いたことがありません。でもそれは相手を思って言っただけのことだ。

宅間 言い訳になるんですけど、「稽古が厳しい」と思うか「自分が甘い」と思うか、その線引きだと思っ(中山)。

……まあ、それである程度緊張感を持つ稽古場に来られるのなら、全然いいと思っ(中山)。

中山さんから、演出家宅間孝行さんに教わりたいことはありますか？

中山 本当にまだまだ経験が足りないのだから、今は自分が何を教わりたいのかすら分からない状態だと思っ(中山)。

その何か、この作品に出会えたから必要な何か、その具体的な部分を学びたいですし、それをこの数ヶ月でどんどん明確にしていきたいと思っ(中山)。

中山さんにとって舞台出演とはどのようなもの？

中山 良い苦しみだと思っ(中山)。

だからと言って映像が甘いということでは全くないですけど、舞台に関わっている時は1日1日が濃厚ですし、何ヶ月も稽古を繰り返して、それをお客様に観て頂くことでようやく結果に繋がるといっ(中山)。

この特別感、ライブ感はあるって然るべき(宅間)

この公演でも、タクフェスならではの「写真撮影タイム」や「カーテンコールライブ」等は予定されているのでしょうか？

宅間 正直、何をやるのがベストなの

か僕も探っている最中で、これが正しいかどうかは分からないんですけど、僕の中の「お芝居」と言うのは文化芸術というより、もっちゃんって狼狽であり、エンターテインメントであり。要は高いお金を払って観て下さったお客様に楽しんでも欲しい。もっちゃん、特別感というか、ライブ感はあるって然るべきじゃないかと思っ(中山)。

観に来てくれたお客様に「ありがとうございませう」という言葉と、気持ちと、ただそれだけのことなんです。最近、音楽ライブとかだと写メがOKな場合も多いじゃないですか。ツイッターに載せてもいいよとか、それは逆転の発想だと思っ(中山)。

それが当たり前になったところで、悪いことはあまりないんじゃないかと思っ(中山)。

うちでは開演前に何人か役者さんが出てきて撮影タイムを設けるんですけど、お客様も会場に馴染んでリラックスできるし、僕らも空気が柔らかくなってやり易くなるし、相乗効果があつて全然悪いことじゃないんです。だから今後も色々なアイデアを練って、是非やってみたいと思っ(中山)。

このお祭り、楽しくてしょうがないんです(宅間)

この公演は7月初旬から9月初旬まで、正に二夏かけて上演されますので「今夏はどう過ごしたいですか？」という質問で締めさせていただきます。

中山 今まで一番、熱くてアツい夏にしたいです。エネルギー全てをこ

だけにこつていこうと思っ(中山)。

今年のは「ターゆうー」に尽くす。

中山 はい。きつとすこく楽しいと思っ(中山)。

勿論、今の自分にはない部分が必要になってくると思うので、試行錯誤しながらやっていくと思っ(中山)。

それを形にしてお客様に観て頂けるというのには役者として非常に嬉しいことだし、これだけ長い期間やらせて頂けるといっ(中山)。

当たり前のことかもしれませんが、完全燃焼していきます。

宅間 毎年やっているとすし、今年が特別なんですってことではないのですが、ステージをやっていくことが僕にとってのライフワークなので、お客様と一緒に作り上げていく。お祭り、もう楽しくてしょうがないんです。

舞台俳優という職業は本当に幸せだなと思っ(中山)。

あとね、「ターゆうー」の上演は今年で4度目なんですけど、今回の出演メンバーが僕の中では決定版なんです。割と隅々まで、非常に上手いことしているんじゃないかと思っ(中山)。

僕自身も今回のメンバーで作りたい。4度目にして、ごく楽しみだ。だから、一度目にして完成形を見せるんじゃないかと思っ(中山)。

今までも、今までも素晴らしい作品ですが、多分それ以上にこれってこんなにすこいんだ」という評価が頂けるような作品がお見せ出来るかもしれない。今回はそういうメンバーと巡り会えた、いま思っ(中山)。

この特別感、ライブ感はあるって然るべき(宅間)

この公演でも、タクフェスならではの「写真撮影タイム」や「カーテンコールライブ」等は予定されているのでしょうか？

宅間 正直、何をやるのがベストなの

か僕も探っている最中で、これが正しいかどうかは分からないんですけど、僕の中の「お芝居」と言うのは文化芸術というより、もっちゃんって狼狽であり、エンターテインメントであり。要は高いお金を払って観て下さったお客様に楽しんでも欲しい。もっちゃん、特別感というか、ライブ感はあるって然るべきじゃないかと思っ(中山)。

公演情報
TAKUMA FESTIVAL JAPAN
『ターゆうー』

作・演出：宅間孝行
出演：中山麻聖、上原多香子、高橋光臣、木塚みこ、竹皮、万田祐介、村越友一、ハルカ、まつき、藤信、中山麻聖、神崎れな、藤吉久美子、山崎静代(南海キャンディーズ) / 阿部カ 宅間孝行

7/3~21 サンシャイン劇場、7/26 OJee とびあ劇場、8/9~17 森ノ宮ピロテール、8/23 OJee、イズミティ、8/27~31 名鉄ホール、9/3~4 札幌市民ホール (お問い合わせ) HMT 03-3453-4018 (平日 10:00~18:00) (東京公演チケットお問い合わせ) サンライズプロモーション東京 0570-00-3337 (10:00~19:00) 他 <http://takufes.jp/yuu/>